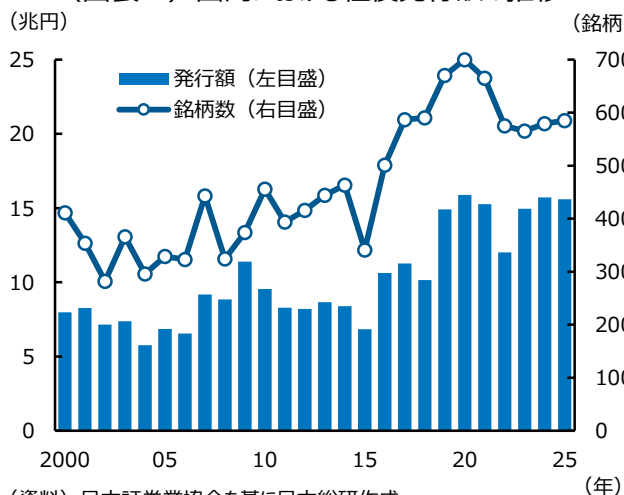


2025年の本邦企業の社債発行状況と投資家動向

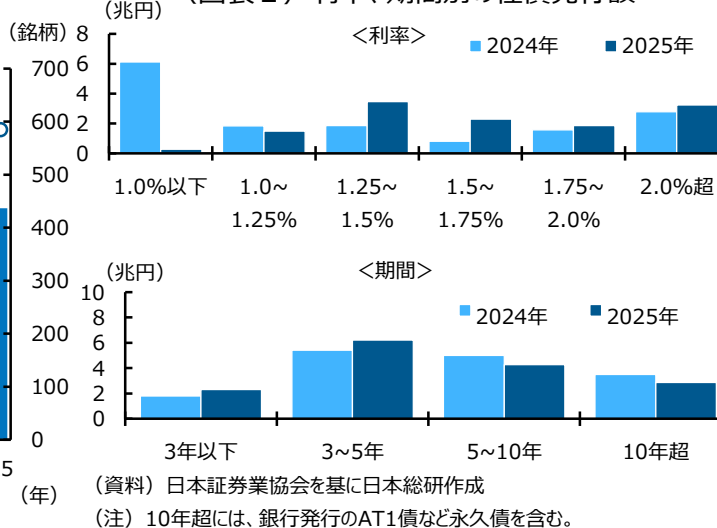
～足元では需給両面に変化の兆し、「金利のある世界」への転換を社債市場活性化の契機に～

- (1) 2025年の本邦企業の社債発行額（公募普通社債）は、15.6兆円（前年比▲0.6%）と前年から横ばいで推移し、過去3番目の規模に（図表1）。昨年は日本銀行による利上げが2回実施され、社債発行コストは上昇したものの、設備投資やM&A関連の資金需要が旺盛であったことが示された形。
- (2) 調達金利別の発行額をみると、金利上昇が進むなか、1%以下の発行がほぼなくなるなど、調達コストが顕著に上昇。また期間別にみると、償還期間が5年以下の発行が増加した一方、それより長い年限は総じて減少（図表2）。日本国債のイールドカーブがスティープ化するなか、調達年限を短期化することで発行コストを抑制する狙い。
- (3) 供給（発行体）サイドで足元で注目される動きとしては、以下の2点。第1に、個人向け社債の増加。金利上昇に伴い、個人投資家にとって債券での投資妙味が増すなか、昨年の個人向け社債の発行額は過去最高を更新（図表3）。もっとも、市場全体に占める発行上位企業の寡占度が著しく高い状況は不変。
- (4) 第2に、外貨建て社債の増加。負債の多い企業や低格付け先など、国内での資金調達が容易でない企業に加え、クロスボーダーM&Aや海外の大型設備投資（AIやデータセンター投資含む）など成長投資を活性化する企業が増加した結果、昨年の外貨建て社債発行額は過去最高を更新（図表4）。

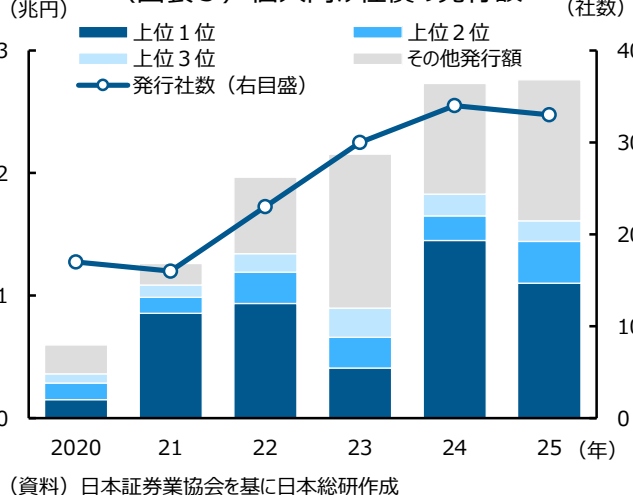
（図表1）国内における社債発行額の推移



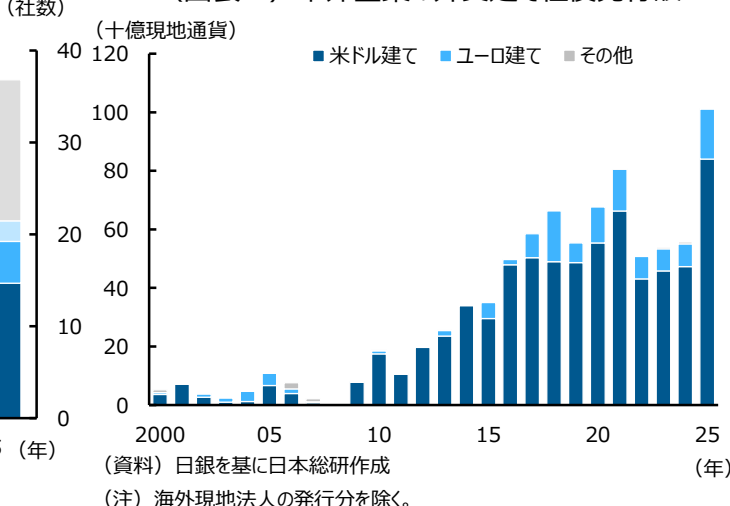
（図表2）利率、期間別の社債発行額



（図表3）個人向け社債の発行額



（図表4）本邦企業の外貨建て社債発行額



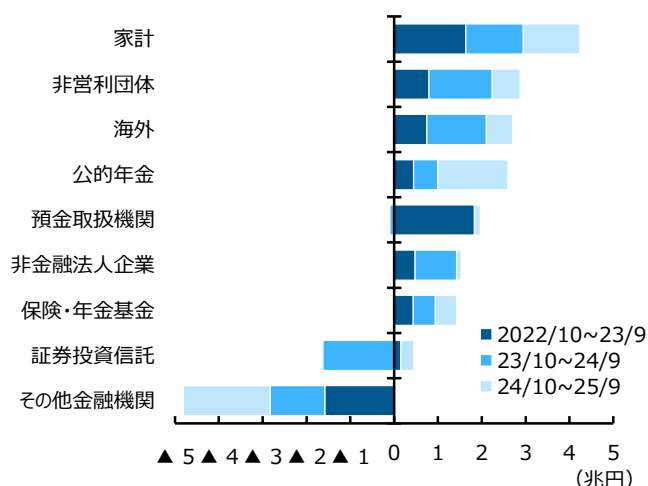
【ご照会先】調査部 研究員 吉田 剛士 (yoshida.tsuyoshi@jri.co.jp, 070-3359-3804)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来るとされる資料に基づいて作成されたものでありますが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあつた取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

(5) 需要（投資家）サイドをみると、近年は家計や非営利団体（学校法人、宗教法人等）の買い越しが顕著に（図表5）。長引くインフレや金利上昇を背景に、家計や非営利団体等において、預金から投資リスクが限定的な債券へ移転する動きが拡大。一方、保険・年金基金や証券投資信託の社債保有は米国と比較して大きな差があり（図表6）、投資家層の拡充には課題が残存。

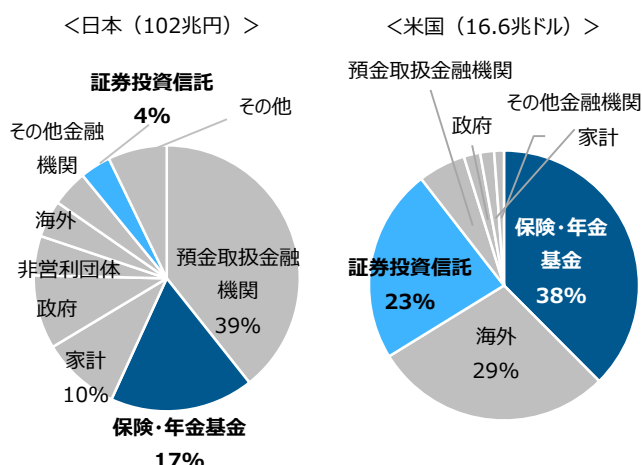
(6) 昨年10月、経済産業省は、社債市場をめぐる発行体・投資家・市場インフラの課題整理を進めるため「企業金融の高度化に向けた社債市場の在り方に関する研究会」を発足。社債活用の意義・実務に関する知見不足や発行コストの負担といった発行体側の論点に加え、高格付けに限定する投資基準の存在や社債権者保護、個人向け社債市場の拡大などの投資家側の論点について検討（図表7）。長年にわたる低金利環境を脱し、企業の資金調達需要や投資家の債券運用ニーズが高まるなか、本邦社債市場の活性化に向けて、議論と実装を一段と加速させる必要あり。

（図表5）主要投資家の社債売買動向



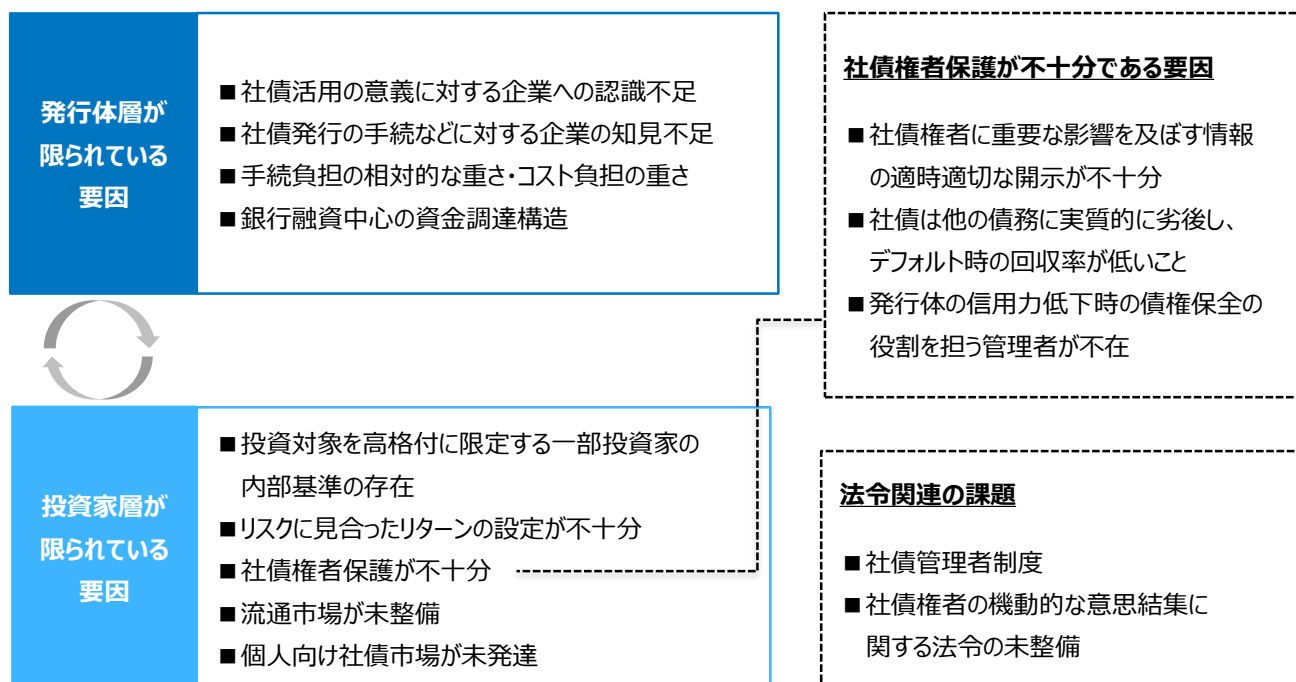
（資料）日銀を基に日本総研作成

（図表6）日米の社債保有主体（2025年9月末）



（資料）日銀、FRBを基に日本総研作成

（図表7）本邦社債市場の課題



（注）経産省「企業金融の高度化に向けた社債市場の在り方に関する研究会」資料を基に日本総研作成

【ご照会先】調査部 研究員 吉田 剛士 (yoshida.tsuyoshi@jri.co.jp、070-3359-3804)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものでありますが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。